

「ドラえもんは仏教？」

1999年に公開された映画『ドラえもん のび太の結婚前夜』をご存知でしょうか。本作は2014年公開の『スタンドバイミー ドラえもん』にその一部がリメイクされています。内容は次のようなストーリーです。

ある日、のび太君は出木杉君^{で き す ぎ}としずかちゃんが劇の練習をしているのを見ました。出木杉君がしずかちゃんにプロポーズするシーンです。のび太君はしずかちゃんとの結婚を心から願っています。出木杉君は、スポーツ万能の秀才です。劇とはいえ、不安になったのび太君は、勇気を振り絞ってドラえもん^{で ら え も ん}とタイムマシンに乗り、結婚相手を確認するため未来に向かいます。のび太君の結婚相手はしずかちゃんでした。

明日はのび太君としずかちゃんの結婚式という日の夜です。しずかちゃんは、のび太君とうまくやっていくことができるか、お父さんに不安を打ち明けます。しずかちゃんのお父さんは、可愛い一人娘をやさしく、しかし力強く励ましました。

「やれるとも！のび太君を信じなさい！」「あの青年は、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができる人だ！それが一番人間にとって大事なことからね！」

この場面はドラえもんの数ある感動シーンの中でも、特に知られているそうです。

「人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができる」ことが、「一番人間にとって大事なこと」と断言されています。この人間像が、多くの方々の共感を呼んでいるのです。

この理想的人間像はとても宗教的です。仏教では、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができるやさしさを「慈悲」といいます。『観無量寿経』というお経に「**仏の心は大いなる慈悲の心である**」とあります。そして慈悲の心を完璧に持っている方を「仏さま」と申し上げます。仏さまは、仏教で理想とする人間像なのです。

皆さんはこのお話をどの様に感じられましたか。いま、多くの政治家を始め「〇〇ファースト」と声高に叫ぶ人たちがいます。現代において、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことは、なぜ大事なのでしょう。それは、私たちが一人で生きているのではなく、様々に関わり合い、共に生かされているからです。「自分ファースト」では、のび太君のような豊かな心は身につかないのです。

のび太君には、ドラえもんをはじめ、個性豊かな友人たちがいます。日頃はぶつかって、ここぞという時に力を合わせます。その関わりの中で、のび太君は共に生かされていることを感じ、その心に人の幸せを願い、不幸を悲しむ力が培われているのだからでしょう。

神様や仏さまのように、理想を完璧に実現することは困難です。けれども、私たちはその理想を求め、願う事こそが大切ではないのでしょうか。